

令和元年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立鳥羽高等学校 】

1 実践テーマ	【 I IV V 】
2 実施対象者	スポーツ総合専攻3年（男 28名、女 13名 合計 41名） 文科スポーツコース3年（男 2名、女 名 合計 2名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ スポーツ科学概論 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目 標 （ねらい）	オリンピック・パラリンピック教育を行う事で、2020年東京オリンピック・パラリンピックに様々な形で積極的に参画し、スポーツを通してグローバルな活躍ができる人材の育成を目指す。
5 取組内容	（1）まずオリンピック・パラリンピックに関する授業を行った。次に3～4人のグループを作り、オリンピック・パラリンピックに関してそれぞれが主体的にテーマを掲げ調査をした。調査した内容についてポスターを作成してまとめあげ、7分程度でポスターセッションを実施した。  （2）「パラリンピックについて知ろう」という授業を行い、パラリンピックの起源、これまでの経緯などに関する講義を行った。また「パラリンピック種目を体験しよう」というテーマで、シッティングバレーボールを実践した。
6 主な成果	○ポスターセッションを行うことで、自分たちがテレビで「見る」という視点だけだったオリパラ競技大会に対して、「知る」「調べる」という取組ができ、違う視点で興味関心を引き立てることができた。  ○体験授業では普段意識することなく行っている「歩く」「走る」という動きが制限される中でのスポーツ体験に「難しい」「大変」という感想が多く寄せられ、その困難さに対してして理解を深めるとともに、普段何気なく行っている動きができない障がい者への理解を、身をもって体験できたと感じている。

7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>○ポスターセッションでは調べたことを伝えるだけでなく、オーディエンスが2020東京大会に向けて、より関心を持てるような視点を提供できるよう助言を行った。</p> <p>○体験授業では事前学習としてNHK番組の「武井壮のパラスポーツ真剣勝負」を見せ、スポーツの概要をより理解して体験することができた。</p>
8主な課題等	<p>○今後も授業を通して体験学習を行いたいと考えているが、行える種目が少ないという課題があげられる。現時点で行えるのはシッティングバレーで1Mのネットで行うスポーツのため、テニスコートで行うことができたが、例えばゴールボールではゴールの設置、ブラインドサッカーは危険が伴う、車いすバスケットは競技用車いすがないなど、体験して理解を深めることをしたいが、なかなか安易には手を出せない点が課題としてある。</p> <p>一方、健常者側としてパラ種目を支える実習などは非常に教育的価値が高いと感じるが、1時間の授業の範囲で行うのは難しく、授業としてパラリンピック教育を行うのは現状が精一杯かとも感じる点も課題である。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>○オリパラ講演会の実施</p> <p>○スポーツ科学概論にてポスターセッションおよび体験授業</p> <p>○スポーツ総合専攻の卒業研究論文における課題研究および発表会</p> <p>○文科スポーツコースの総合的な学習の時間における課題研究およびポスターセッション</p> <p>など</p>

ポスター作成の様子



ポスターセッションの様子



シッティングバレーの様子

